

<b>授業科目</b> 実践看護学演習 I	<b>科目概要・形式</b> 2単位 60時間	<b>配当年次</b> 1年 後期
<b>科目責任者</b>	細川 満子	
<b>担当者</b>	細川 満子、鳴井 ひろみ、福岡 裕美子、清水 健史、谷川 涼子、松尾 泉	
<b>1. 科目のねらい・目標</b> 臨床看護の対象となる患者（療養者）・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために関連する研究論文を探索し、研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、専門領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。		
<b>2. 授業計画・内容</b> <b>【細川 満子・松尾 泉】</b> 1) 在宅看護に関連する文献検討を通して研究課題および研究方法について分析的に考察する。また、事例や研究論文を分析し、現状の課題を把握し、その解決方法について探求する。 2) 在宅看護に関連した研究課題の方向性について検討する。  <b>【鳴井 ひろみ】</b> がん患者・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、がん予防、がん薬物療法看護、緩和ケアに関する研究論文を探索し、研究論文のクリティーク、文献レビューの過程を通して、がん看護学領域で必要とされている実践および研究課題を明らかにする。  <b>【福岡 裕美子】</b> 老年看護に関する先行研究について、クリティークする力を養うとともに、老年看護の実践に関する研究動向や課題を探求する。  <b>【清水 健史】</b> 精神看護の対象となる患者・家族にエビデンスに基づいた看護実践を行うために、事例分析や先行研究の知見を通して、精神看護領域で必要とされる実践および研究課題を明らかにする。  <b>【谷川 涼子】</b> 1) 小児看護に関連する文献検討を通して研究課題および研究方法について分析的に考察する。また、事例や研究論文を分析し、小児看護に必要とされる技術や技法について探求する。 2) 小児看護に関連した研究課題の方向性について検討する。		
<b>3. 教科書、参考書</b> 特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。		
<b>4. 成績評価方法</b> 課題に対するプレゼンテーションおよびレポート、参加態度で評価する。		
<b>5. 受講要件</b> 実践看護学特論 I を履修済みの者。		
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b> 夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上、履修日時を調整する。		
<b>7. その他</b> 授業は受講生がリーダーシップをとって、ゼミ形式で行う。		